

一般質問



金井田
議員

○元寇（弘安の役）750年を迎えるにあたっての鷹島海底遺跡の未来戦略について

質 本市は道の駅鷹ら島に「元寇の島鷹島を水中考古学の拠点へ」という理念を掲げています。これを単なる理念で終わらせてはいけなく考えています。2031年の元寇750年という歴史的節目を迎えるにあたり、この理念を現実のものとして形にしていく時期ではないでしょうか。本市として水中考古学の拠点化を今後どのように具体化していくか、お尋ねします。

文化財課長 松浦市を水中考古学の拠点にすることは、国史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書の整備活用方針や松浦市文化財保存活用地域計画のアクションプランの中で示しています。令和6年に文化庁の認定を受けた文化財保存活用地域計画のアクションプランの中で、策定から12年を経過した保存管理計画書の見直しに取り組むこととしています。この見直しで、より現状に見合う内容の保存活用計画を作成し、拠点化の方向性を再整理したいと考えています。

質 奈良文化財研究所の出張所、あ

るいは研究拠点機能を鷹島町へ設置することを目指すべきだと考えています。5月25日の長崎県への要望（重点項目…鷹島神崎遺跡の保存と活用について）において、市長自ら県知事へその思いを直接伝えられたことは、大変心強く感じています。行政と議会が同じ方向を見据え、鷹島を水中考古学の拠点へという理念の実現に向け、一体となって取り組んでいく姿勢が示されたものと受け止めています。今後もこの流れを継続的な取り組みにつなげていくことが重要で、歴史が眠る島から世界へ向けた水中考古学の拠点として、鷹島町はその可能性を持っていると考えますが、見解をお尋ねします。

市長 昭和55年から現在に至るまで継続的に調査が行われてきた鷹島海底遺跡、そして、国内唯一の国の指定を受けた水中遺跡の鷹島神崎遺跡、いずれも日本だけではなく、世界に認められた水中遺跡であると認識しています。これまでの調査成果や元寇船の発見に至るプロセスの確立、海揚がり遺物の保存処理技術など現状を鑑みても、本市が行っていることは、既に水中考古学の拠点としての事業と言っても過言ではありません。本市のこれまでの取り組みが全国に広がるように引き続き努力を重ねていきたいと考えています。

一般質問



本
紙
議
員

○3月定例会での一般質問事項の確認について

質 福島地域複合機能庁舎の災害時の避難所機能強化の観点から、LPGガスで駆動する「GHP（ガスヒートポンプ）」の機能調査の検討結果と導入について伺います。

福島支所長 市民向けの説明会で、複数の方からいただいた意見等を踏まえ、現在、改めて基本設計段階で、EHP（電気式ヒートポンプ）とGHPの両方式について、総合的に評価する作業を行っています。設計業務完了までに空調方式を決定し、説明会で寄せられた意見等への対応を含め、周知したいと考えています。

質 本市が避難所として指定している公共施設等において、避難所機能の強化及び熱中症対策の観点から、GHPの導入を検討すべきと考えるが、見解を伺います。

防災課長 公設避難所の開設の際は、現在の空調設備の整備状況に合わせ、各施設内で使用可能な箇所を施設管理者と調整を図り設定をしているため、現時点でGHPの導入検討は行っていないです。

○水道料金の統一について

質 本市では家庭用水道の基本料金はこれまでの経緯や理由があり地域ごとに異なっていますが、これを統一し市民負担の軽減と公平性の確保を図るため、基本料金や超過料金の見直しを提案します。具体的には、現行10立方メートルまで1700円を7立方メートルまで670円に、現行の5立方メートルまで1200円を4立方メートルまで450円に改定し、これに加え、超過料金は1立方メートル当たり125円に合わせる提案について考えを伺います。

市長 基本料金の値下げの提案について検討を行いました。仮にこの値下げを行った場合、年間約5300万円の料金収入減となり、この財源の確保が課題となります。また、上水道に対して赤字補填は行っていないませんが、現状で旧簡易水道事業では利用者からの給水使用料だけでは事業費用を賄えず、令和6年度は一般会計から1億9000万円の繰入れを行っています。簡易水道の基本料金の値下げは、いま以上に一般会計からの繰り出しが増えるため非常に難しい状況です。なお、今後は上水道についても施設や管路の老朽化が進み、更新のための財源が必要になり、このため、今年度設置する松浦市上下水道事業運営審議会で、適正な料金体系について検討を進めることとしています。